

油田遺跡

一般国道52号（甲西道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報



油田遺跡

1994.3

山梨県教育委員会
建設省甲府工事事務所

序

本報告書は一般国道52号（甲西道路）改築工事に先立ち、1992（平成4）年度から2年間にわたって調査された山梨県中巨摩郡甲西町田島字油田に所在する油田遺跡について、その概要をまとめたものであります。

調査はI～IVと設定された調査区において実施され、調査結果は以下の通りであります。

I区は弥生時代および古墳時代の文化層が3面確認され、土器集中区、杭列、地震痕などが検出されました。遺物は第2文化層の土器集中区より弥生時代中期中葉を主体とする土器片、黒曜石剝片等が多量に検出され、また第2文化層の旧河川内では弥生時代中期後葉の土器片とともに木製の堅杵、磨製石鎌が出土しています。II区は古墳時代の文化層が2面確認され、土器集中区などが検出されました。III区は弥生時代と古墳時代および平安時代以降の文化層が3面確認され、遺構は平安時代以降の水田跡11枚、古墳時代後期末葉の祭祀跡1ヶ所などが検出されました。遺物は古墳時代後期を中心とする土器片および祭祀跡に伴う獸骨（馬の歯）などが出土しています。IV区は弥生時代中期およびそれ以前の文化層が2面確認され、溝状遺構が1条検出され、遺物は遺構外より弥生時代前期末葉から中期初頭の条痕文系の土器片が少量出土しています。

今回の調査では弥生時代中期の遺物が比較的まとまって出土しており、県内においては希少であり、この地域を初めとして県内における弥生時代研究の基礎となる資料と思われます。

末筆ながら、種々ご協力を賜りました関係機関各位、地元の方々並びに直接調査、整理に従事していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

1994（平成6）年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 大塚 初重

目次

1. 調査の経過
2. 遺跡をとりまく環境
3. 発見された遺構と遺物
4. まとめ

例言

1. 本書は、1992（平成4）年度および1993（平成5）年度に実施した山梨県中巨摩郡甲西町字田島に所在する油田遺跡の発掘調査概報である。
2. 調査は、一般国道52号（甲西道路）改築工事に伴う事前調査であり、山梨県教育委員会が建設省より委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 本書の執筆・編集は保坂和博・松土一志が行った。
4. 本報告書にかかる出土品・図面・写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

1. 調査の経過

1) 調査の事務経過

一般国道52号線の改築工事に先立ち、平成2年度に一部遺跡の確認調査を実施し、この油田遺跡を含むいくつかの遺跡が発見された。油田遺跡は甲西町田島字油田に所在し、平成4年度～平成5年度にかけて発掘調査が実施された。

発掘調査の日程は以下のとおりである。

- ・平成2年6月19日～10月12日

甲西道路改築工事路線内道路確認調査で油田遺跡を確認。

〈平成4年度（第1次調査）—II・IV区〉

- ・平成4年9月14日～12月28日

発掘調査実施。

〈平成5年度（第2次調査）—I・III区〉

- ・平成5年5月11日～12月17日

発掘調査実施。

2) 調査の実施

調査区はI～IVの4地区に分けられ、平成4年度にII・IV区、平成5年度にI・III区の調査を実施した（第2図）。各年度の調査内容は以下のとおりである。

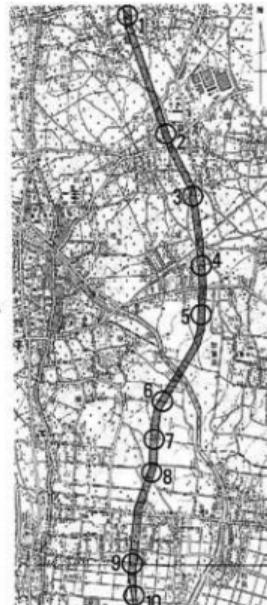
〈平成4年度（第1次調査）—II・IV区〉

調査面積：II区は調査区北側に2面の文化層が確認され調査を行った。南側は旧河川により削平されていた。調査総面積は3,540m²である（第7・8図）。IVは調査区南側に3面の文化層が確認され調査を行った。北側の第1面から第3面は旧河川により削平されていた。調査総面積は4,400m²である（第11・12図）。

グリット設定：5mメッシュを設定し、東西方向を東からa～k、南北方向を南から1～35の記号を付けた（第3図）。

〈平成5年度（第2次調査）—I・III区〉

調査面積：I区は調査区南側において、南から北に舌状に展開する微高地の先端部に3面の文化層が確認され調査を行った。北側は旧河川により削平されていた。調査総面積は6,000m²である（第5・6図）。III区は3面の文化層が確認され調査を行った。調査区西側の第1・2面は旧河川により削平されていた。調査総面積は3,000m²である（第9・10図）。



1. 七ツ打丁道跡 (中世～近世の溝状通路)
2. 十字路道跡 (古墳時代の墓道跡)
3. 村前町A道跡 (古墳・平安時代の集落跡)
4. 新居浜下道跡 (古墳・奈良・平安時代の集落跡)
5. 二本柳道跡 (平安～江戸時代の水田跡、中世の墓塚)
6. 向河原道跡 (弥生・近世の水田跡、中世の水路跡)
7. 油田道跡 (弥生・古墳時代の土器集中区、平安時代以前の水田跡)
8. 中川田道跡 (中世の水田跡)
9. 大師東丹保道跡 (弥生・縄文時代の水田跡)
10. 宮沢中村道跡 (近世の寺領跡)

第1図 遺跡位置図
(1/50,000)

グリット設定：5mメッシュを設定し、東西方向を東からA～K、南北方向を南から0～33の記号を付けた（第3図）。

付記 平成4年度の調査で設定したグリットとは異なる。

3) 文化層について（第4図）

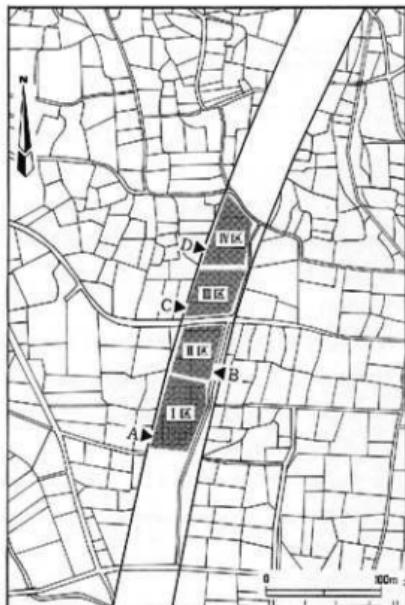
油田遺跡のI～IV区における文化層の層序関係は滝沢川の氾濫源という地理的状況より一様なものではないが、基本的には弥生時代から平安時代にかけての文化層が存在すると考えられる。

第1文化層は平安時代に比定され、表土層（1層）直下に存在する。調査区南側（I・II区調査地点）は砂礫層によりかなり削平されており遺構の検出は困難であった。調査区北側（III・IV区調査地点）は比較的の遺存状況は良好であり、遺構が確認された。

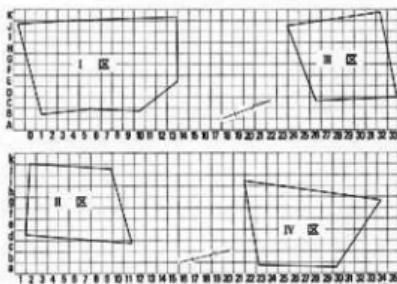
第2文化層は古墳時代に比定される。第2文化層直上に堆積する砂礫層（3層）は調査区南側（I・II区調査地点）では厚く堆積し北側に行くに従い徐々に薄くなり、III区北側からシルト層に移行している。遺構面の遺存状況はこの砂礫層の堆積状況に比例し、砂礫層が厚く堆積しているI・II区は、かなり削平されている。

第3文化層は弥生時代に比定され、各地区内において比較的の安定した堆積状況を呈している。第3文化層直上層（5層）はI～III区ではシルト層、III区北側およびIV区では砂礫層の堆積が確認され、北側に移行するにつれて遺構面の遺存状況は悪くなっている。

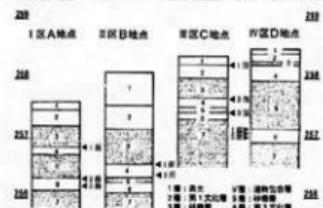
第3文化層の下層において黒色を呈す文化層が数面確認され、II区およびIV区で調査を行ったが、遺物・遺構は全く検出することはできなかった。



第2図 油田遺跡発掘区（1/500）
(A・B・C・D : 基本層序確認地点)



第3図 グリット設定図（1/5,200）



第4図 基本層序および調査地点（▲印）

2. 遺跡をとりまく環境

1) 地理的環境

油田遺跡は山梨県中巨摩郡甲西町田島字油田の標高259mに位置する。この地域は甲府盆地西縁の柳形山より急激に釜無川に向かって下る滝沢川によって形成された小扇状地扇端部にあたり、湧水が数多くみられ、水の豊富な地域として知られている。今回の調査においても、表土下約1m程で土壤のグライ化が観察されている。また、各調査区内を北西から南西方向へ横断する形で大規模な滝沢川の氾濫による砂疊層の堆積が幾筋にも確認されている。

2) 歴史的環境（第1図）

甲西町にも縄文時代から中世に至る各時代の遺跡が数多く存在し、これらの遺跡の分布状況は微高地、扇状地というそれぞれの地形に適した各時代の遺跡が存在している事を示している。台地には縄文時代の遺跡、微高地には弥生時代から平安時代の遺跡が数多く存在している。また、扇状地においてはこれまで古墳時代以降の遺跡が中心に確認されていたが、甲西道路改築工事に伴う調査により弥生時代の遺跡の存在も明らかにされてきている。

3. 発見された遺構と遺物

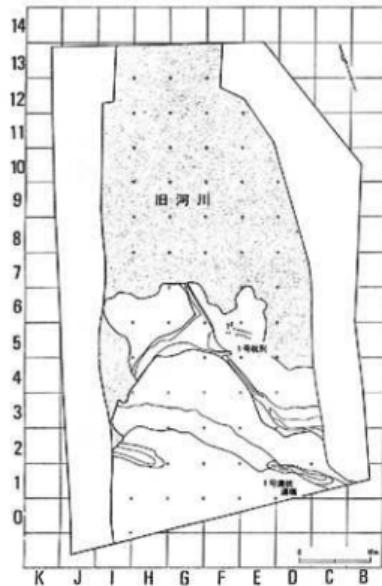
各地区において発見された遺構は以下のとおりである。

調査区	文化層	遺構名一覧出数(段号)	時 期	主な伴出遺物	備 考	図版番号
I・II区	第1面	杭列—2条(1・2号)	古墳時代		3種類の杭が使用されている	第5図
		扇状遺構—1条(1号)	古墳時代			第5図
II区	第2面	土器集中区—1箇所(1号)	弥生時代中期	手取土器、石器(石器類)、瓦(イシカス)等	祭祀跡の可能性が考えられる	第6図
	第1面	扇状遺構—1条(2号)	古墳時代後期			第7図
III区	第2面	土器集中区—1箇所(2号)	古墳時代後期	小型復・要・核(土器器)、要(須恵器)	祭祀跡の可能性が考えられる	第8図
	第1面	水田柱—11枚	平安時代以降	土器片少量		第9図
IV区	第2面	扇状遺構—4条(3~6号)	古墳時代後期	3号・6号:土器片少量		第10図
		祭祀跡—1箇所(1号)	古墳時代後期	手取土器(須恵器)、瓦(須恵器)、式化器、瓦(イシカス)等		第10図
		礫石—2基(1・2号)	古墳時代後期		祭祀跡に伴うと考えられる	第10図
		土器集中区—2箇所(3・4号)	古墳時代後期	陶(土器器)、式化器、瓦(イシカスなど)		第10図
		ピット—11基(1~11号)	古墳時代後期		祭祀跡に伴うと考えられる	第10図
V区		土坑—1基(1号)	古墳時代後期			第10図
	第3面	扇状遺構—1条(7号)	時期不明			
VI区	第1面	扇状遺構—1条(8号)	鉄器時代			第11図

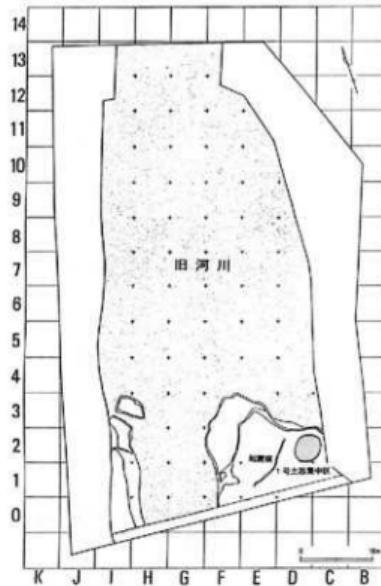
第1表 油田遺跡検出遺構

1) 発見された遺構

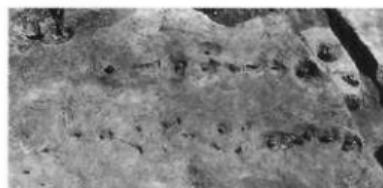
〔杭列〕（第5図）I区第1面で2条平行して検出され、杭の上端は上層の砂疊層により破壊され根本部のみ残存していた（図版1）。用途は北側の旧河川より第1面（微高地先端部）へ水を引き込む用水路として使用されたと考えられる。杭の形状は加工を施していないもの（丸形）、加工を施しているもの（長方形、正方形）の3種類に分けられ、加工を施しているものはいずれも先端部に残るA種刃先痕より鉄製工具で尖らされていると考えられる^{注1}。



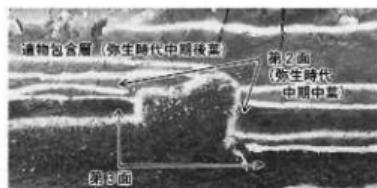
第5図 I区 第1面全体図
(古墳時代)



第6図 I区 第2面全体図
(弥生時代中期中葉)



図版1 I区 第1面1号杭列（南側から）



図版2 I区 第2面液状化跡（西側から）



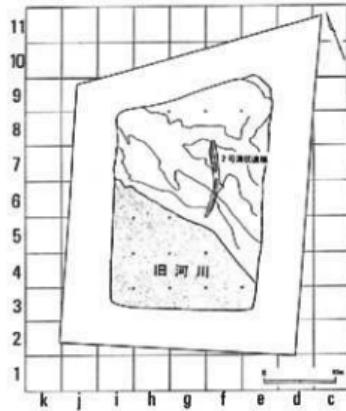
図版3 I区 第2面旧河川出土土器



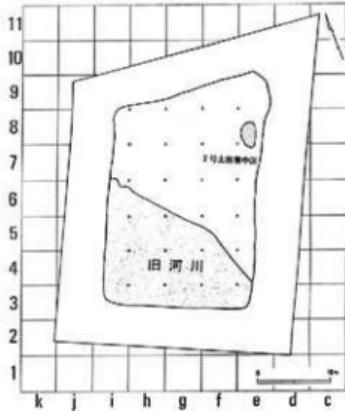
図版4 油田遺跡出土石器



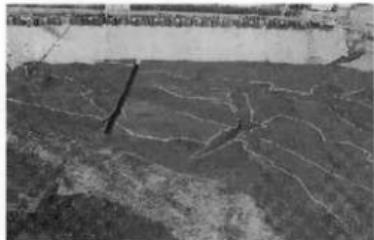
図版5 I区 第2面旧河川出土木製品（堅杵）



第7図 II区 第1面全体図
(古墳～平安時代)



第8図 II区 第2面全体図
(古墳時代後期)



図版6 II区 第1面完掘状況(南側から)

〔地震痕〕 (第6図) I区第2面で地震による砂脈、噴砂、液状化層、断層が検出された。砂脈は造構面から20cm以深にある砂疊層の液状化に起因し、北東—南西方向に長さ8m、最大幅10cmの割れ目に沿って砂や砾(最大径1cm)が確認されている。断層は砂脈を境として上下方向に約10cmの食い違い(東下がり)を示していた(図版2)。地震の時期は砂脈が第2・3面の造構面および第2面上層のシルト層を引き裂いているが、その上層の弥生時代中期後葉の遺物包含層に覆われていることから、弥生時代中期後葉以前と考えられる。一般に液状化し難いと考えられている砂疊層から噴砂が発生していることから、かなり激しい地震動が予想される¹²⁾。なお、本道路の1km南側に存在する大師東丹保遺跡¹³⁾においても検出されている。

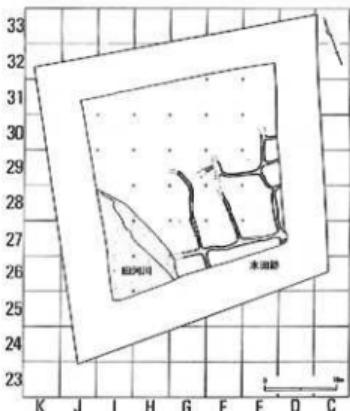
〔祭祀跡〕 (第10図) III区第2面に木の根本部が検出され、この周辺に集石2ヶ所、土杭1基、ピット群、古墳時代後期(鬼高)の多量の土師器片・須恵器片および馬の歯、炭化物などが伴出しており、木のたもとで馬の骨を祭った祭祀が行われたと考えられる。



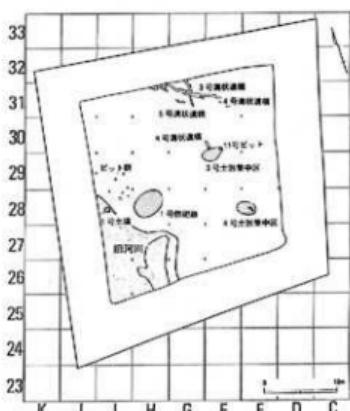
図版7 II区 第2面2号土器集中区



図版8 II区 第1・2面出土土器



第9図 Ⅲ区 第1面全体図
(平安時代以降)



第10図 Ⅲ区 第2面全体図
(古墳時代後期)



図版9 Ⅲ区 第1面完掘状況(南側から)



図版10 Ⅲ区 第2面1号祭祀跡(東側から)

2) 発見された遺物

[弥生時代の土器]

前期末葉～中期初頭：IV区第1面造構外より条痕文系の壺が出土している（図版13）。

中期中葉：I区第2面C-2グリット周辺の土器

器集中区より須和田式併行期の土器（第13図

1～2）が出土し、器種は壺、壺がみられる。紋様は胴上半部に縄文を地文として同上に施描きの太形沈線（円形紋など）を巡らして施している壺（1）や胴下半部に条痕がつけられ、底部に網代压痕がみられるもの（2）がある。

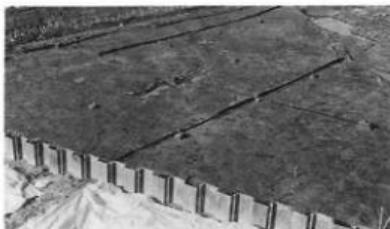
中期後葉：I区第2面の旧河川により栗林II式～百瀬式併行期の土器（第13図3～20）が多量に出土している。器種は壺、壺がみられ、壺は口縁部が外反するものと受け口状をなすものがある。壺の紋様は頸部に櫛描きの籠状文（8）、波状文（7・8・12）を描くものが多く、口唇部を縄文で押捺とするもの（4）や「コ」の字重ね紋を持つもの（11）などもある。壺の紋様は頸部に主体的にみられ太い沈線で平行線を描いたもの（13）、櫛描きの波状文や籠状文を施したもの（14・18）、貼付文が付けられたもの（19）、縄文を地文とするもの（20）などがみられる。



図版11 Ⅲ区 第2面1号祭祀跡出土土器



第11図 III区 第1面全体図
(弥生時代前期末葉～中期初頭)



図版12 IV区 第1面完掘状況（南東側から）



図版13 IV区 第1面遺構外出土土器
(弥生時代前期末葉～中期初頭)

〔石器〕 I区第2面C-2グリット周辺の土器集中区（第6図）より、黒曜石の石核・剝片（フレイク・チップ類）および石鏃（図版4-3-7）が伴出している。黒曜石の出土状況により、石器製作が行われたものと考えられる。この地点からはイノシシ、シカあるいはカモシカなどの獣骨が検出されており、田畠を護る狩猟が行われていたと考えられる一方では、石鏃が凹基式および凸基有茎式の2種類あり、特に凸基有茎式石鏃が多い点からは武器としての弓矢に変容したものと考えられ、弥生時代中期中葉という時代性を反映している面も考えられる^{注4}。I区第2面の中央部や西よりには北一南方向で旧河川があり、多量の弥生時代中期後葉の土器片、木製の堅杵とともに磨製石鏃（図版4-2）および打製石斧（図版4-1）が流れ込んでいた。磨製石鏃は最大長4.6cm、最大幅1.1cmを計り、両側縁が刃部となり、股部に近く二孔が穿たれた無茎偏平な形を呈している。打製石斧は残存長14.8cm、最大幅8.8cmを計り、粘板岩を用材としている。

〔木製品〕（第6図）既記したI区第2面の旧河川により、多量の弥生時代中期後葉の土器片とともに堅杵（図版5）が出土し、最大長78.5cm、最大幅7.2cmを計り、形態は握部を撫部に比べて細く造り出すのみで、両部分の境は不明瞭であり、合田茂伸氏の分類によるC類に属するものである^{注5}。また表面の加工痕より鉄製工具で作られたと考えられる^{注6}。

注1 宮原氏は弥生時代の木製品に様の加工痕を分析し、A種刃先は鉄製工具、B種刃先は石製工具によって生じると考察している。
宮原智一「石斧、鉄斧のどちらで加工したか」『弥生文化の研究』10 1968

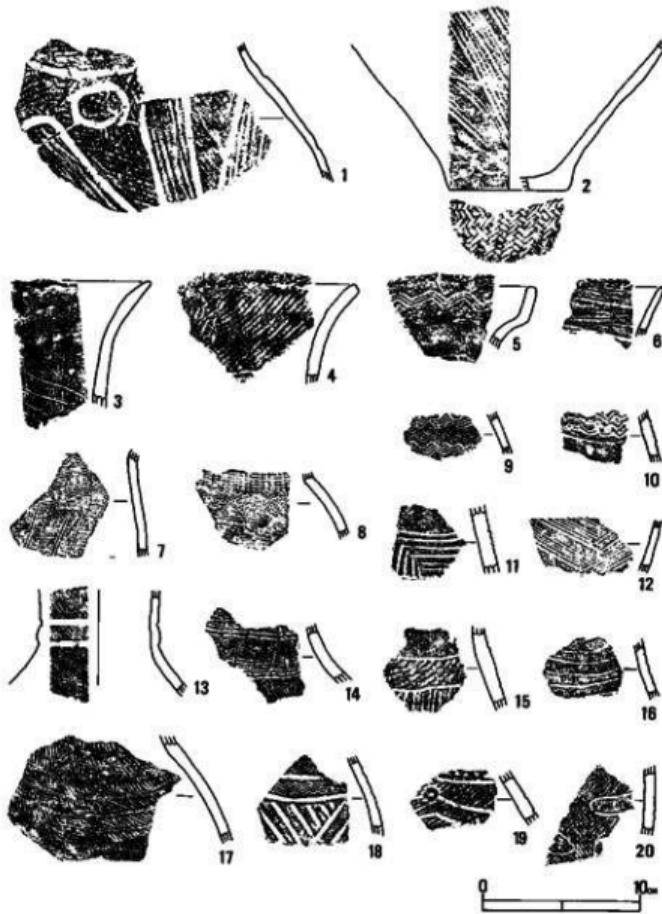
注2 高川 勉「地質考古学」、1992 中公新書

注3 大野東洋保遺跡では弥生時代後葉の埴輪陶において極端に砂層の方向は本道跡とは異なっているようである。
「大野東洋保遺跡」、「山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第86集」、1994 山梨県教育委員会

注4 真 潤「武器」、「季刊考古学」第23号、1988

注5 合田茂伸「弥生時代の杵と臼」、「湖沼善教先生墓甲記念考古学論集」、1989

注6 (注1) 考古論文



第13図 油田遺跡出土土器（弥生時代）

4.まとめ

油田遺跡では弥生時代前期末葉から平安時代の遺構、遺物が検出された。特に地震痕の検出によりこの地域の歴史を探る新たな手がかりを得られ、またこれまで県内においては希少な弥生時代中期中葉および後葉の土器群が発見され、該期における周辺地域（長野、静岡、南関東など）との関わりが浮き彫りにされたことは大きな成果である。さらに今回の調査では弥生時代の水田跡は検出されなかったが堅杵等の発見により、この地域で稲作農耕が行われていたことは間違いない、自然科学分析および火山灰分析と合わせ古環境復元へのアプローチを今後行っていきたい。

調査組織

調査主体	山梨県教育委員会
調査機関	山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者	保坂和博（山梨県埋蔵文化財センター文化財主事） 松土一志（山梨県埋蔵文化財センター文化財主事）
作業員・整理員	青木小春、青木とよじ、青木雪枝、青木恵美子、秋山欣三、麻生菊江、厚芝成美、有泉登茂子、井上和美、井上ことじ、井上増美、井上巴江、井上ひさえ、井上とめ子、石川いく子、石川百枝、石川文治、石川幸子、石川房男、石川恭子、伊藤正子、伊藤としの、伊東智恵子、石倉みづ子、石倉憲雄、内池宣子、大川要七、大木秀子、大木つや子、大久保武志、大久保初子、大森武雄、大森権藏、大堀次雄、小川良子、長田なをみ、小田切ちよみ、乙黒さつき、小野節子、小野嘉美、河西幸子、河西好恵、川住好恵、菊地富士子、木村まつ子、河野景子、河野なみ江、齊藤増子、齊藤幸子、桜林文雄、塙沢雪江、清水つよむ、清水豊子、清水みつえ、志村福男、神宮寺正義、杉山なつよ、田中虎雄、千野正雄、千野良男、鶴田満雄、内藤春枝、内藤一江、中込貴子、中込芳則、中村まさ子、名取明子、西海元子、西山幸子、原田ちづる、深沢直樹、深沢悦子、松野充延、松野なを美、松本しま子、望月厚子、望月泰子、森本紀美子、渡辺洋子、依田昌一
協力者・機関	甲西町教育委員会

報告書概要

フリガナ	ア布拉ダイセキ		
答名	油田道耕		
調査題	一般国道52号（甲西道路）改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報		
シリーズ	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第87集		
著者名	保坂和博・松土一志		
発行者	山梨県教育委員会 建設省甲府工事事務所		
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター		
住所・電話	〒400-15 山梨県東八代郡中條町下曾根923 TEL 0552-66-3881		
印刷所	合資会社 ヨネヤ印刷		
印刷日・発行日	1992(平成4)年3月22日・3月30日		
油田道耕	所在地	山梨県中巨摩郡甲西町田島字油田148-1 他	
	25,000分の1 地名・位置・標高	小笠原	北緯 35°35'45" 東経 138°29'58" 標高 259m
概要	主な時代	弥生時代中期中葉～後期、古墳時代後期～平安時代	
	主な遺構	祭祀跡、土器集中区、土坑、杭列	
	主な遺物	弥生土器、土器部、須恵器、黒曜石製石器（石鏡）、磨製石斧、獸骨、種子	
	特殊遺構	地盤痕	
	特殊遺物	鑿件	
	調査期間	1992(平成4)年9月14日～12月28日、1993(平成5)年5月11日～12月17日	

山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第87集

1994年3月22日 印刷

1994年3月30日 発行

油田遺跡

編集 山梨県埋蔵文化財センター

山梨県東八代郡中道町下曾根923

TEL 0552-66-3881

発行 山梨県教育委員会

建設省甲府工事事務所

印刷 合資会社 ヨネヤ印刷

